

目田川を活かした自然体験学習の推進と 地域川づくりの展開

特定非営利活動法人 びわこ豊穡の郷

I. はじめに

守山市は琵琶湖南湖の東岸に位置し、市内を流れる川の水のほとんどは赤野井湾に流入する。一方その水系は鈴鹿山脈を水源として琵琶湖に流入する野洲川下流部に位置し、かつて市内には野洲川の伏流水等による豊富な湧水池やきれいな里中川が多く“水”に恵まれた町だった。

しかし近年、上下水道が完備し水が便利に利用できるようになるとともに市民の里中川への関心は希薄となり、川そのものも3面コンクリート張り等の排水路と化し、かつてはホタルや魚が泳ぎ子ども達がたわむれた水辺は無くなってしまった。川に流れる水も汚濁が激しく、流入する赤野井湾は琵琶湖の中で最も水質汚濁が激しい水域となってしまった。

1996年に設立した「豊穡の郷赤野井湾流域協議会（当NPOの前身組織）」はそんな河川や赤野井湾・琵琶湖を元の生態系豊かな水域に取り戻すことを目的に設立され、当初の活動は流域河川の水質や水量・生物環境等の調査活動やその結果をふまえての情報発信・啓発活動が主であった。設立から数年を経過した2000年頃より会員が汗を流し、形あるものを造り上げる実践活動も大切であるとの考えから、かつての自然豊かな里中川を復活し地域にモデルとなるような、会員の理想とする「モデル河川づくり」に挑戦すること

になった。

II. 川づくりの目的と計画

“身近な河川環境が良くなれば自ずと琵琶湖はきれいになる”との基本的なコンセプトのもと、先ず身近な川を多自然型河川に復元することを目的に市内に流れる候補河川の選定を始めた。市内数か所の候補地について地理的、地域的条件や復元後の利用価値等を検討項目とした。現地検証を実施した結果、市内中心部を流れる準用河川「目田川」の中流域約500mの荒地化した水域を活動地点に決定し、管理者である守山市や地元自治会にも理解と協力を求め了解を得て本事業をスタートした。

事業を進めるにあたり先ずその目的と計画を明確にするべく下記の設定を行った。

(1) 川づくりの目的

- ① 理想とする河川とは、「きれいな水がいつも流れる川」「魚たちが群れをなして泳ぐ川」「この場にふさわしい樹木や草花が季節を伝える川辺があり初夏にはホタルが乱舞する川」「子どもたちに自然の遊び場と市民にやすらぎが得られる川」との結論に至り、この実現を目指し、具体的な理想図を描き、年間計画を立て毎月1回の活動を展開する。



事業開始前の様子



現在の様子

② 本活動に多くの個人・団体が汗を流しながら参加することにより、河川づくりを通じて水や川の管理の大切さを学び、人々との交流や地域交流が広がることを目指していく。

③ 継続的な活動の成果として多自然型の河川環境の整った目田川において、特に子どもたちが安全に自然と触れ合える自然体験学習の場等を提供し、更には目田川をモデルとした川づくり活動が他の地域にも広がるよう視察等の受け入れを行い、自ら情報発信も積極的に行っていく。

以上の取り組みを進めながら、将来は守山市との連携で目田川流域を「多自然型河川公園」としての整備を目指していくこととした。

(2) 川づくりの計画

① 川の流水部分と河川敷き部分について其々具体的な検討を加え、流水部には直線的な流れを曲線的な流れに変えるため、中州(中の島)を造成し併せて瀬や淵をつくる

② 河川敷き部分には、昔からこの地域で育ってきた樹種を主体にした樹木を植栽し河川敷きの保全と緑化をすすめる

③ 市民の憩いの場として活用してもらうため、開放的な水辺空間を造成し、更には安全面にも配慮してバリアフリーな整備を行う

以上の基本的な川づくり計画を立案して本事業を進めていくこととした。

Ⅲ. 作業計画と実施

当法人組織の中に「目田川モデル河川づくり委員会」なるプロジェクトをつくりそのメンバーを中心に作業を進めることとした。毎月第3土曜日の午前を作業日と定



重機を使用する作業

め委員会に所属する会員20名ほどで作業を開始した。定例作業としては

- 川の散乱ゴミの回収(エコフォスター)
- 川床・川岸の整備や草刈り等の保全作業
- 水質や水量・生物の環境調査

とし、作業日毎にその時点で必要な作業を実施していくこととした。

2001年7月より作業を開始、早速大仕事である中の島の造成に取り組んだ。

本作業では近隣の栗東市金勝森林組合の協力を得て金勝山に間伐材の伐り出しに行き、木杭をつくり、重機を使った杭打ち作業は今でも大きな思い出となっている。

以下、主な作業としては下記を実施してきた。

① 2005年頃より水辺の水生植物も繁茂し、魚も泳ぐようになり、昆虫類も増えてきたので、初めて守山ゲンジボタルの幼虫の放流を行い、その後沢山のゲンジボタルの飛翔が見られるようになった。

② 2007年、高島市の間伐材を譲り受け、憩いの場としてジャンボテーブルを設置するとともに、環境啓発を目的に本事業の目的を明示した木製看板を立てた。



除草作業



作業後の語り

- ③ 一方、こうした作業の合間に“楽しみ”を加えることで、参加者同志の親睦と交流、更には活動の継続と拡大を目指して野草のてんぷらやバーベキュー等の“お楽しみ会”を年3～4回開催している。
- ④ 2012年、セブンイレブン記念財団の助成を受け、作業に必要な草刈り機など器具の充実と、敷地緑化のためヤマボウシ、カヤ等24本の植樹をすることが出来た。

IV. 活動の成果

(1) 川づくりの繋がり

① 定例作業の協働

開始から数年は当NPO会員による作業であったが、近年近隣の障害者福祉施設・湖南ホームタウンの職員や家族の会、レイカディア大学のボランティアグループの人たちが毎回参加され川づくりを楽しんでいる。大学生や高校生の参加もみられ協働の輪が広がってきている。

② 流域としての広がり

目田川上流部で守山ライオンズクラブによるカツバタの植栽や守山緑創会による桜並木づくりが進められており、流域としての自然の川づくりが展開されている。

③ 自治会による川づくり

市内各地の自治会において、季節の花植え、魚の放流、ホタル飛翔等を目指した川づくりが盛んになり、地域における川への関心が高まりつつある。当NPOのホームページの「川づくりネット」でモデル河川を中心に情報の交換・連携を進めている。

(2) 自然体験学習と啓発活動

10年間の川づくり保全維持作業の結果、守山の市街地では希少な多自然型河川が復活し、多様な生物環境が蘇ってきた。この環境を活用して自然体験学習の場を提供している。

① 水辺の楽校の開催

年2回春と夏に子どもとその保護者を対象に水辺の自然体験の場として「水辺の楽校」を開催している。毎回、子どもと大人共々30名程の参加で、子ども達は水につかり、水草や生き物に直接触れて貴重な体験をするとともに会員の指導による自然学習を受けてたのしみながら学んでいる。



ゴミ拾い



水辺の楽校

② 幼稚園・保育園児の川遊び

園児達の学習として目田川で水遊びや自然体験等を実施している。昨年(2011年度)は7月14日に守山幼稚園児60名が水遊びや水生昆虫の観察を行った。又、10月には市内3保育園児による川遊びが実施され、毎回、当NPO会員によって川と琵琶湖の繋がり、水の大切さ、生き物のお話し等の学習支援を行っている。

③ 環境団体等の研修

2009年に「環境教育リーダー研修基礎講座」(文部科学省、環境省主催)、2010年「海外メディア本邦招聘プログラム」(JICA事業)等の研修の場として目田川フィールドが利用されている。

(3) 豊かな生態系の復活

10年余り前、2000年頃の目田川は瓦礫ばかりの荒地で、川の生き物の存在はおろか岸辺も雑草の中にセイダカアワダチ草が目立つ河川敷きであった。活動を始めて12年目の今では人の力と自然の力で、大変豊かな生態系が見られるようになってきた。



ホタルの幼虫の放流



園児の自然体験学習

① 魚類

カワムツ・タモロコ・タナゴ・オイカワ、カマツカ、ヨシノボリ等を年中見ることが出来る

② 水草、野草類

四季を通じていろいろな水草や野草が多く育っている。タンポポ(外来種含む)、スギナ、ミゾソバ、アキノエノコログサ、アキノノゲシ、ジュズタマ、ヒガンバナ 等々(オオカワジシャ等の外来植物も繁茂している)

③ 鳥類

川の小鱼を目当てに鳥類が沢山飛んでくる
コサギ、アオサギ、セクロセキレイ、カワセミ、カモ等

④ 昆虫類、水生昆虫類

ハグロトンボ、シオカラトンボ、マイコアカネ、イナゴ
ヒラタドROMシ、ニンギョウトビケラ 等

⑤ トノサマガエルやクサガメ、その他カワエビも見られる

⑥ 貝類

カワニナ、タイワンシジミ、タテボシ 等

⑦ 数年前より人工飼育したホタルの幼虫を3月頃に子ども達によって放流してもらい6月初旬に成長したゲンジボタルが川面に飛翔して市民を楽しませている。近い日にホタルが自然発生することを願い“ホタルの住める川”づくりを進めていきたい。

V. 活動継続の留意点

川づくりは自然との共生であるので一朝一夕では達成することは出来ず、長い時間の継続活動が必須である。そのために前述のように楽しみを取り入れた活動、参加者が次回作業日に期待を持つように工夫すること、そしてしっかりとした目標を持ち新たな展開を取

り入れながら少しずつでも進化するよう、留意することによりリーダーは苦勞している。

10年余りの活動を経過してその間、参加者の出入りがあつたり作業が計画通り捗らなかつたりの課題はあったが、他団体との協働や流域としての広がりも見られるようになったことは私たちのやり甲斐に繋がっている。

VI. 今後の計画と目標

定期的に活動を継続して行い、永続的な維持保全を図り、併せて地域(自治会)の川づくり活動に連携していくこと、自然豊かなフィールドを活用して子どもから大人までの自然体験を通じた環境学習を積極的に提案していきたい。

水と緑が織なす自然空間として更に整備を進め、市民の散策、憩いの水辺としての「ふるさと自然河川公園」化、更には守山市の将来構想として計画されている、目田川下流部に広がる現市民運動公園の総合公園化(セントラルパーク化)に繋がるよう、地域や行政との連携を更に図っていきたいと考えている。

市内の川や水辺が可能な限り自然に近づくこと、人々が先ず川や水辺に関心を寄せてくれることが、身近な川が蘇る基本的な条件であろう。当法人が別に進めている事業「守山の水辺百選」等と連携して、私たちの究極の目的である赤野井湾・琵琶湖の再生に向けて、未だ遠い道のりであるが真摯にたゆむことなく活動を継続してまいりたい。

特定非営利活動法人 びわこ豊穡の郷